

おひさしぶりの

同窓会誌 13

渾沌会

九州大学芸術工学部・九州芸術工科大学 同窓会

Remember



渾沌マークは芸術工学のシンボル。そのデザインは、数年に渉り、幾度か微調整されたが最終的には創設期の原型に戻った。



2010年1月、大橋キャンパスの一コマ。信じられない同窓生も多いと思う。▲

国際色、爛漫。

キャンパスの標準語が「英語」になる日も遠くない？
アジア圏を越えて、多くの留学生が在籍中です。

教員として大橋に戻ってきてから6年。凄まじい勢いで進行する大橋キャンパスの国際化を、驚愕の目で追いつける毎日です。

二〇〇三年に赴任以来、芸工の留学生を対象とした講義を担当。集まった学生は全員アジア系の留学生でした。日本語でのやりとりにも支障はなく、逆に英語はNGという状況でした。

ところが、3年ほど前から急に事情が激変。二〇〇九年の受講生の出身国は、中国、韓国、台湾、アメリカ、ドイツ、オランダ、ギリシャ、オーストラリア、ポーランドと実に様々。さすがに、日本語だけの授業は厳しくなりました。そして現在、私だけでなく、芸工全体が同様の状況になりつつあります。

ここに至った要因の1つが交流協定校の増加。以前から芸工と協定を結んでいたカリフォルニアポリテク大学（アメリカ）のほか、二〇〇二年以降、新たに6大学が部局間協定校として追加されています。

- ミラノ工科大学（イタリア）
- カールスルーエ造形大学（ドイツ）
- パリ・ラ・ヴェイレット建築大学（フランス）
- ユトレヒト芸術大学（オランダ）など

この他に九州大学との15校の大学間協定校

からも留学生が来校しており、おそらく今後さらに増えるでしょう。

さて、国際的かつ賑やかにしつつあるキャンパスですが、いくつか問題も生じています。上記留学生の多くは滞在期間が1年以内と短く、日本語での会話があまりできません。よって授業でのやりとりもさることながら、生活面のサポート等をどのようにするかが今後の課題となっています。

一方で留学生、あるいは海外留学に興味を持ち、交流イベント等に積極的に参加する日本人学生も増加しています（なぜか女子学生が多いです）。学内では、勉学、遊びを問わず情報交換をおこなうコミュニケーションが形成されつつもあるようです。大学側のスタッフとしては、様々な文化が交差する中でより豊かな学生生活が送れる場を作っていければと思います。



写真提供 / 九州大学芸術工学部

グラウンドのサクラは今年も満開
このそばに部室の長屋があったこと憶えてる人はもう少ない

もっと Web



サーバー統合と今後の展望

渾沌会では、これまで、会員の皆様への常設的な情報発信媒体として、各支部それぞれのウェブサイトを活用してまいりました。そして、この度、サーバ及びドメイン統合を行いましたことをここに報告したいと思います。

過去、渾沌会としてのウェブサイトが本部しかなかった時代に、実は関東支部、関西支部ともに独自のサイトを運営していました。が、距離的問題もあり、関東・関西支部との相互連絡が十分に取れていませんでした。そのため、関東・関西支部の動きが本部としても確認しづらく、同様に各支部も本部の動きは分かりづかった経緯があります。そこで、支部それぞれにウェブサイトを構築し、支部内での事業案内や会員拡大に努めてまいりました。

連絡形態の見直しで渾沌会ウェブの連携も改善でき、次の課題として、その運営体制の見直しに着手しました。その最たるものが、各方面における費用削減です。あわせて、ウェブ広告の募集等で、運営費の増収も考えました。結論として「本部支部それぞれにかかるウェブ運用費を一本化することで、経費を削減する」ということが、今回のサーバ統合に至った主背景です。

■今後の計画

デザインの統合

サーバ統合は完了したのですが、デザインや情報構成等は本部・各支部ともこれまでのままとなっているのが現状です。多少のデザインが違う点については、さほど問題はないのですが全く違う3つのデザインになっているので、統合に際して1つのウェブサイトになったことから全体的な見直しが必要であると考えています。

情報掲載運用等の見直し

これまで、渾沌会全体に関するお知らせについても、各支部のウェブサイトそれぞれで掲載をしていたり、その内容に応じて掲載・不掲載の判断基準等があいまいになっていました。これらについても、統合に際して、情報掲載箇所の一元化と、各支部特有の情報発信ルールの明確化等、運用の見直しを行っていく予定です。

ReMember 発行を印刷物から Web コンテンツへ移行

今後この記事内容は渾沌会ウェブサイトに掲載するものとして、印刷費の削減と記事原稿提出期限の軽減となり、ウェブとしても生きた情報を随時更新することが可能となると思われます。このように、サーバ統合を機として、今後ともウェブサイトを活用し渾沌会のさらなる発展に貢献していきたいと考えています。

富安 悠/芸情設計 1期

渾沌 GOODS 名簿 2009 在庫僅少!

追加申し込みを受付中

■渾沌カップ

昨春デビューした渾沌マーク入りのカップ、大小ペアで3,800円(消費税・送料・代引き手数料込)です。焼酎、お茶、そば猪口にと、いろいろと“使えそうな”サイズです。制作者は工業設計学科3期の広川隆氏。山口市で工房を営まれています。購入希望者は、氏名と連絡先(メールアドレス・電話・FAXのいずれか)を明記のうえ、以下までお申し込みください。



●お申込は

E-mail: office2010@www.alum.design.kyushu-u.ac.jp
FAX: 092-553-4539

渾沌 GOODS 新企画の募集を終了

約3年間にわたって募集してきた渾沌 GOODS 企画ですが、このたび募集を終了することになりました。渾沌切手、絵はがき、クリアファイル、携帯ストラップなど、さまざまなアイデアを戴きました。

結局、実現できたのは渾沌カップのみでしたが、渾沌 GOODS の実現という新しい一歩を踏み出した意義は大きかったと思います。また近い将来、新たな企画を展開していこうと考えております。渾沌会会員の皆さんも、アイデアがありましたら、どしどしお寄せください!

■同窓会名簿 2009

前回の受付時に購入し損なった会員の皆さまには先着順で販売(5,000円)致します。残部は約180冊です。増刷はいたしませんので、残部が無くなり次第、販売終了とさせていただきます。

●ご注文・お問い合わせは事務局まで

藤 智亮/工業設計 20期



【本部から】

■役員改選のお知らせと立候補の受付

今年は、本部役員任期満了に伴う改選の年です。会員の皆様からの積極的な立候補をお待ちしています。同じく、改めてご案内申し上げます2010年度総会は、新役員指名ならびに承認の場でもありますので、総会への出席もお願い致します。

■『私の仕事 LIVE 2010』サポート軍団を結成

わが同窓会に頼もしいサポーター集団が誕生しました。芸術工学の精神を後世に伝えるべく、これまで渾沌会主導で実施してきた「私の仕事 LIVE」。卒業生が仕事・芸術工学について語る姿を通して、芸術工学や自分の将来の職業についてイメージしてもらおうというイベントです。

同総会と準会員である在学生との接点を作り、同総会の活動に親しんでいただく事も目的の一つですが、渾沌会から準会員へのサービスとしても開催を続けてきました。

本部 & 支部が総力を結集した会員同士の相互支援システム!
あなたのパートナーを、Web でリメンバーできます!!

Web 広告

受付
開始

母校で学び、社会で鍛えたそのパワー。
あなたの自慢のパワーを、広告して下さい。
かつての仲間が、その力を探しているはずだから
あいつとなら、きっと楽しい仕事になるはずだから

お問い合わせは事務局まで ●掲載料: 相談に応じます
●テキスト広告: 1000円/1行・1ヶ月 ●バナー広告: 検討中

在學生へのサービスでありながら、在学生の意向を考慮することなく渾沌会主導で実施してきたために、在学生のニーズと必ずしも一致していなかった事もありました。この様な反省から、「私の仕事 LIVE」を在学生主体に実施することとし、2010年度より、本部は、そのサポートにまわることとしました。これまでの運営はトップダウンスタイルでしたが、これからはボトムアップ。企画段階から若い感性と活力を投入でき、新たな情報ネットワークの構築と組織の新陳代謝が図れます。



高祖 智明 / 画像設計 11 期



【関東から】

関東支部でのトピックスとしては、2009年度新社会人歓迎会をあげたいと思います。関東支部では毎年恒例となってきた新社会人歓迎会ですが、今回は、新体制になって初めての企画・実施となりました。新体制でのテーマの一つに「20期・30期代といった同窓生中間層の同窓会活動への参加促進」があります。どうかこの要素もまじえてできないかということで、私も含めた20期・30期代が学祭で手に汗握って観戦していた「格闘技研究会の学生プロレス」をメインイベントとして開催しました。実は、支部長である私も10年前までは、リングの上で熱い闘いを演じていたので、私を含めた関東にいる格闘技研究会OBと一緒に検討を重ねていきました。新社会人へエールを送る意味で、「卒業し社会人として関東に来て、あの頃と同じスピリッツで闘っているんだぞ!」といった気持ち

ちを含め、約100名弱集まった同窓生の方々も楽しめた懇親会になったのではと思っています。当日の様子は関東支部ホームページにも掲載していますので、是非ご覧ください。

<http://www.konton.jp/kanto/dousou/houkoku/20091011.html>
このように、関東支部では、これからも関東「ならでは」といった部分を大切にしていきながら、さまざまな活動を行なっていきたいと思っています。

■活動報告

2009.10.11 「2009年度新社会人懇親会」開催
随時 東京ミッドタウン「九州大学・芸術工学東京サイト」
との連携検討
ホームページをコアとしたコミュニティ活性化の推進
若年層による同窓会イベント企画推進

富安 悠 / 芸情設計 1 期

【関西から】

関西支部では組織の変更があり、支部長として私(近藤英夫)が、同じく副支部長として田中雅資を選出いただきました。ともに16期です。



関西支部としては、まず多くの同窓生が同窓会の事業に参加してもらえるよう考えていきたいと思っています。そのためには、同窓生だけでなく、その周りの人々が来たくなくなるような事業を考えることが必要ではないかと考えています。

そういうわけで今年は、芸術工学にちなんだイベントや講演会、ワークショップなどを計画中です。デザインすることよりもデザインを統合、プロデュースするという芸術工学の視点で何か続けていけたらと思います。いいアイデアなどありましたらぜひご紹介ください。また関西は特定の会場がないのでどこかお借りできる場所も募集中です。

関西でも運動部や研究室単位での小さな同窓会は多くひらかれています。それらの情報網としてWEBなども機能していけたらと思います。目標をすえて一つ一つやって行きたいと思っています。よろしくお願いたします。例年通り、今年も花見はやりませう。多くの方の参加をお待ちしています。

近藤 英夫 / 環境設計 12 期

絆の継承を受け継ぐために

私の仕事は「私の仕事 LIVE 版! 2010」サポート軍団のリーダーです。メンバーは各学科から2~3名の学生有志が集合。この企画運営に参加し、趣向を凝らしてイベントを盛り上げていくために力を合わせます。今回は<11月の芸工祭>の時期に併せての開催を予定しています。



目下、就職活動中の私は、芸工の卒業生の方々に大変お世話になり、貴重な体験をさせてもらっています。早いうちにこのような繋がりができれば有意義に学生時代が送れる...なんて真面目なことは言いません。芸工生は「人が好きな人」が多いはずですよ! 学祭に遊びにくる感じでお越しください!

稲盛 智章

九州大学芸術工学府デザインストラテジー専攻 1 年



『私の仕事』LIVE版! 2009

聞いてビックリ! 芸術工学の最前線!! 波瀾万丈、逆境にめげない芸工スピリットの大乱舞。



芸術工学座談会運営事務局 河原一彦 (音響 16期)

工業設計学科 テーマ

デザイナーの業務領域の拡大

語り部: 長野宏司 (工業 9期) Vs 上田義弘 (工業 9期)

パネラーは、日産自動車デザイン本部の長野宏司さんと富士通デザインの上田義弘さんのお二人。自身の現在の《仕事》をベースに、デザイナーの仕事の広がりについてと芸工生に期待することについてお話いただきました。参加した学生は10人程度といささか少なかったのですが、その分、講師と学生の距離が近く、密度の濃い座談会になりました。

確立する」ことについて熱く語られました。その中でも日産の車を動物に例え、「NISSAN」ブランドは多様な動物が揃っているのに対して「INFINITY」ブランドは例えるならライオンやチーター等のネコ科の種類というように、その車を見た瞬間にブランドがわかることが重要だと仰っていました。しかし、日本車にはBMWやベンツ等の海外ブランドに比べその統一感がないことに対し、逆にそれは強みであって、幅の広いラインナップを提供していること、世界中にデザイン拠点を構えていることが日産自動車の「世界をリードするデザイン」を生み出していると仰っていました。また、デザインの地域性について、日



「Futurist・Humanist・Ecologist」であること

まず上田さん。富士通に入社以来、プロダクトデザイン、ユーザ・インタフェースデザインを実践され、現在は富士通が提供するプロダクト、サービス、ITソリューションのデザイン開発を統括されておられます。その中で、上田さんが特に大事にしていることは、「プロダクトでもサービスでもお客様（人間）に提供する価値をデザインすることが大事である」と力説されました。富士通の「らくらくホン」は高齢者をターゲットに、このようなお客様視点でデザインしたことで、大ヒットに繋がったそうです。また、新しい商品を開発する時のデザイン活動についても話され、商品のビジョンを創ることがますます重要になってきているとのことでした。最後に上田さんは、プロダクトデザイナーはスタイリングを創るだけではない。Futurist（未来に向けて、ビジネスや商品のビジョンを描く）であれ、Humanist（お客様や生活文化、社会のことを考えデザインする）であれ、Ecologist（地球の将来を考えて商品やサービスをデザインする）であれ、とエールを送られました。

「日本人らしさのデザイン」

次に長野さん。日産自動車に入社以来、途中アートセンターカレッジに留学され、一貫してカーデザインに従事されてきました。現在は、日産自動車が開発する「INFINITI」ブランドと「NISSAN」ブランドのうち、「NISSAN」ブランドのデザイン統括者であるデザイン本部プロジェクトデザインダイレクターをなされています。長野さんは「デザインとはブランドを形成していく非常に重要なツールである」とし、日産自動車が提唱する「世界をリードするデザインで強力なブランドを

本人が日本人らしくデザインすることと、インド人がインド人らしくデザインすることは違い、その違いを大事にすることが世界をデザインする自動車メーカーにとって重要だとも。さらには、自動車の未来について「これからの10年は、今までの100年」だとも。エネルギー源が変わり、かつ技術が進歩することによって、カーデザインは大いに影響されるそうです。

最後に「世界の中での自分の力を良く考えることと、コンセプトがどういう風にデザインにそしてビジネスに持っていくのかを考えること、また美しいデザインを造るためには、とにかくトレーニングをすること」とのアドバイス。約二時間の座談会で、お二人のデザインへの熱い気持ちが、参加したわたしたちに、大きなやる気を与えてくれました。

レポート/大学院 DS 専攻修士一年 市井了

環境設計学科テーマ

環境設計から生まれた建築

語り部: 石原健也 (10期) Vs 坂口舞 (29期)

環境系の「私の仕事 Live 版! 2009」は、「環境設計から生まれた建築」をテーマに、環境10期の石原健也さん（株式会社デネフェス計画研究所・千葉工業大学准教授）と、環境29期の坂口舞さん（有限会社設計機構ワークス）のお二人にお話しいただきました。

坂口舞さん。福岡と東京にオフィスを持ち、住宅設計をされている若手の女性建築家です。修士課程に在学中、一年間休学してお父さんの事務所で実務を積まれた経験をお持ちとか。学

生の頃は泊まり込みで課題に打ち込んだ生活が思い出になり、即日設計や夜中のプレゼンテーションなどの経験が、タフに仕事をこなす力に結びついたそうです。

プライベート空間にも外のまち・人とのつながりを

「住宅というプライベートな場所の中のどこかで、外のまち・人とのつながりがほしい」という、坂口さんの視点は、街路とつながりのある、アプローチ・玄関・土間・キッチンとの連続性のある作品として表現されていました。

また、施主と建築家のやり取りをオープンにする「打合せ掲示板」をホームページ上で公開されています。施主は安心して坂口さんに設計を任せられるでしょうし、これから家を作ろうとする人々との繋がりにもなる面白い活動だと感じました。子どもの環境づくりに視点をおく「こどもの」や、医療系の「Doctor Design Lab」などの、テーマ型のネットワーク活動にも携わられており、人の繋がりを大切にされる坂口さんだからこそ、設計された建物に温かみがあると感じられました。

なによりも、「人」の建物にかかる思いを汲み取り、行為を形にする仕事だと感じました。お二人は「製図室に何日も泊まり込み課題を乗り越える経験、そして、少人数であるがゆえに、様々な人とのつながりを大切にすること」が強い思い出と言われていました。環境設計学科のDNAは、お二人の建築家のご活動の中で、育まれ続けています。

レポート／環境・遺産デザインコース 岩坂 優

音響設計学科テーマ

レコーディングエンジニアという職業

語り部：浜田純伸(13期) Vs 杉山勇司(賛同出演)

今回、レコーディングエンジニアとしてトップで活躍されているお二方にお越し頂いた。

浜田純伸さんは作曲家・久石譲さんの作品を長年に渡って手がけておられ、「となりのトトロ」以降の全ての宮崎駿作品の



協働して環境を作る

石原健也さん。実務家と教育者の両面を持たれている建築家です。29歳の時に独立され、現在のデネフェス計画研究所を作られたそうです。「denefes」とは、Design network for environmental structureの略。独立された際に「石原建築設計事務所」にはされなかつたとか。個人の作品を作るのではなく、クリストファー・アレクサンダーの「協働して環境を作る」、という考え方に共感されたそうです。

環境構造をネットワークとしてデザインすること。石原さんは「Experience from millimeter to kilometer」というテーマを掲げ、最近のお仕事を進められているそうです。2009年に竣工された箱根の研修センターの設計活動をご紹介いただきました。この敷地は、富士箱根伊豆国立公園の中にあり、景観を維持するために様々な設計上の制限がありました。設計する際には、周りの山中の水の流れや生息する植物への影響が少ないように考慮し、また、建物周辺の植栽は周囲の植物を使用するなど、環境への配慮に重点を置かれたそうです。建物の空間、外観、そして周辺の景観について、施主や協力者とイメージを共有するために、数多くのスケッチと設計事務所が埋まるほどの模型を製作し、お互いの表現内容を調整されてきたそうです。宿泊用の個室については6分の1というスケールで細部に至るまで作りこまれていました。石原さんが言われる、「人があふれることで生気を帯びる建築」、「行為と場」、そこで繰り広げられる「Experience」。その思いと精力的な設計活動の中から、リアリティのある建築・環境が紡ぎだされてくると感じました。

今回お二人の講話を聞いて、建築家とは、建物の設計をするだけでなく、細部にこだわり、周囲の環境への配慮も忘れず、

サウンドトラック制作に関わっている。個人的には、ここ10年以上私の愛聴盤であり、サウンド面でもすばらしいと尊敬している小島麻由美のアルバムのレコーディングエンジニアこそが浜田さんということで、非常にテンションが上がってしまった。もうひとつ、杉山勇司さんは芸工の出身ではなく浜田さんのご紹介でお越し頂いた。その経歴は輝かしく東京スカパラダイスオーケストラ、LUNA SEA、L'Arc〜en〜Cielなど名だたる有名アーティストたちを手掛けておられ、私の愛読誌Sound&Recordingなどでもよくお目にかかるエンジニアである。さらに我らの青春時代、X JAPANも手掛けたということでまた非常にテンションが上がってしまう。

ということで遠方からも駆けつけて下さった音響のOBの方々、そして熱い学生たちが多くかけつけ座談会は始まった。浜田さんも学生時代TRPで活動されていたそうで、現役TRP部員たちが大半を埋め尽くしてしまった会場の光景は、まさに脈々と受け継がれてきた芸工大スピリットを物語っているようでもある。

過酷な仕事、泥臭い努力の繰り返し

お二方の話は「レコーディングエンジニアの仕事の本音」という部分に焦点が当てられ、一見華やかな舞台に見えるレコーディングの世界が、本当はどれだけ過酷な仕事なのか、どれだけ泥臭い努力を繰り返されているのかひしひしと伝わってくるお話であった。強烈だったのは杉山さんがX JAPANのメンバーと一緒にいる曲のミックスをしている映像。あるワンフレーズのサウンドをメンバーがなかなか納得いかず、重い沈黙が延々と続くその現場の光景は、「ロサンゼルスでレコーディング」というかっこいいキーワードからは想像もつかない地獄絵図で



あった。そんな過酷な仕事の中で、なぜ今もなお情熱を持ち続けられるのか？それはやはり音（音楽）が好きだからであり、音響設計学科で学んだ音の物理的側面、聴覚的、心理的側面、音楽的な側面のそれらすべてが有機的に結びついて活かせるのが、レコーディングエンジニアという仕事なのだという浜田さんの言葉に、日々音を追い求め勉強している全ての学生が強く心を打たれたに違いない。

あわよくばプロのエンジニアをあとと言わせたかった

その後立食パーティーを挟み、スタジオにてお二方によるワークショップが開かれた。内容は私たち学生が取り組んだレコーディング作品を聴いてもらい、アドバイスして頂くというもの。しかし私たちの裏の本心はそこではない。単にアドバイスだけに甘んじず、私たちが真剣に取り組んだ作品をプロに真正面からぶつけ、あわよくばプロのエンジニアをあとと言わせてやろうという野心があったのだ。それがお二方に伝わったのか、座談会の和やかな雰囲気とは打って変わった目つきになり、真剣に学生たちのレコーディング音源を聴き、本気でどこがよくて何が悪いのかを、時には厳しい言葉も使いつつアドバイスして下さった。深夜にまで及んだリスン&トークバトルは、もちろん私たちはコテンパンに打ちのめされたのだが、本当に密度の濃い楽しい時間であった。

最後に多忙なスケジュールの中、午前0時を過ぎてから始めた打ち上げにまで参加し、私たちにたくさんのお話を聞かせて下さった浜田さん、杉山さん、本当にありがとう御座いました。

レポート／音響4年（38期）佐藤慎也

画像設計学科 テーマ

Design + Technology = Entertainment

語り部：松尾佳美（11期）Vs高祖智明（11期）

今回は、イギリス、アメリカのアマゾンショップでCompact Impactというオンラインショップ事業をやられている松尾佳美さん（画像11期）を中心に、(株)ブライト・ウェイの高祖智明さん（画像10期）との対話形式でお話をさせていただきました。Compact Impactでは、松尾さんが知り合った東京とニューヨークの優秀なデザイナーやプログラマーらが開発した商品を主に海外に向けて販売しており、今後は日本に向けての販売も考えているとのこと。松尾さんは若い頃から海外で奮闘されてきた方というだけあって、ある意味で異色のお仕事談を聞くことができました。

日産を辞め、デザイン事務所を辞め、ニューヨークへ

その経歴を事前に聞いていた私はどんな兵（つわもの）が来るのだろうと勝手な想像をしていましたが、実際お会いしてみるとごく普通で、素敵な女性の方でした。私はついその経歴

ばかりに注目してしまいましたが、松尾さんはニューヨーク（以下NY）に行って「何をやるにしても方法は1つだけじゃない。その1つがダメだったとしても、別のやり方で結果が出せる。それがわかってから、精神的にとっても楽になった」とそっと話してくださいました。「企業もデザイン事務所も向かないとわかり、自分が何に向いているのかわからなくなってNYに行ってしまった。それは逃げだったのかもしれない」とご自身で語られていましたが、自分の能力が生かせる最適な環境をNYに見出し、その中で自分のやりたいことできることを見つけ、自分の仕事を生み出してきたその力が、紛れもなくこの方の強みのなのだろうと感じました。ちなみに、英語もできない就業ビザもない状況でNYに飛び込めたのは、一度思いついたらすぐ行動する性格とお友達がNYにいたからだそうです…すごい。

問題や壁にぶつかったとき、それを解決することが楽しみ

「どんなに難解な問題や逆に身近な小さい問題にしても、それを解決していくためにはまずいろんな情報を集めることが必要。その作業の中で今まで自分の知らなかった発見が生まれ、新たな仕事を見つけていくことができる。」これは対談中に何度も出てきた言葉で、ご自身や周りにいる優秀な方々も問題を解くことが好きな方が多いとのこと。特に重要なのが、情報を集める中で面白いと思った人には会って話をしてもらえるように自らをプロデュースすることだそうです。「(自分は謙遜して)芸工の卒業生には優秀な方がたくさんいらっしゃるの、ぜひ学生の方は面白いと思った人には会って話をしてみしてほしい」とおっしゃっていました。



失敗しても人のせいにならない

対談の中で最も印象に残った言葉です。「自分が好きでやって失敗したらそれは自分のせい。大事なはその次を考えること。そう思えば、いろんなことに挑戦できるから。」最初の言葉にあった「やり方は1つじゃない」という意味がここではっきり理解できました。それはこれから就職をしていく学生にとって必要なメッセージであるようにも感じます。「やりたいこと、好きなことを見つけたらどうぞ話をしにきてください。」懇談会でお酒を片手にそう話してくださいました。

レポート／画像4年 世戸誠典

芸術情報設計学科：開催休止

本年度は、残念ながら開催を見送らせて頂きました……。まだまだ若い学科ですが、活躍されている方も多くと思われます。是非！ここは同窓会の皆様のご協力で、在学生への明るい未来のためにも、芸情ご出身の話題提供者をご紹介頂けると嬉しいです！

同窓会 自主企画：熱い想いを語り継ぐ『芸術工学ライブトーク』

「あの人の声が聞きたい」募集中

会員が推薦したいパネラーを待ってます。

●私的デザイン論 ●人生哲学 ●学生諸君への叱咤激励 なんでもOK。

ご要望は各学科のライブサポーター、または事務局まで

同窓会 HP からのメール連絡も可能です

*メールには、氏名・出身学科・入学期をお書き添え願います。

帰ってきんしゃい 待っと～よ

OB 教員の Welcome

●ご都合によってご紹介できなかった先生もおられます。
あしからず、ご了承下さい。

工業 19 期の尾方です。08 年に芸工に戻ってきました。いろいろ造りながら、デザインを学生さんと一緒に考えています。20 年経って変わったような変わっていないような芸工・大橋ですが、たまにはのぞきに来てください。



尾方義人 (工業 19 期)

大学院芸術工学研究院コンテンツ・クリエイティブデザイン部門

芸術工学で学んで 25 年後、僕はこの大学へ戻ってきました。今これからの皆さんの 25 年にワクワクしています。自分のやりたいことを芸術工学のスキルでやっつけていくことで、皆さんのオリジナリティの高い芸術工学が社会に認められ、必ず成就すると信じています。



清須美匡洋 (画像 9 期)

大学院芸術工学研究院デザインストラテジー部門



日本に古くから伝わる概念に「縁」と「むすび(産)」がありますが、芸工を卒業した人たちとの不思議な「縁」を実感しています。その「縁」とみなさんの「産」の力によって芸術工学の新時代を築いていきたいと思います。



都甲康至 (環境 8 期)

大学院芸術工学研究院デザインストラテジー部門

2009 年の 4 月に戻って来ました。実に 12 年ぶりです。福岡を離れている間は主に医科学系の研究に従事していたので、デザインや芸術と縁の薄い毎日でした。今は、忘れていたものを思い出しつつ、自分の立ち位置を確かめながら教育と研究に励んでいるところです。



樋口重和 (工業 21 期)

大学院芸術工学研究院デザイン人間科学部門



KID Memorial Yacht Club

芸工大にヨット部ができたのは 1970 年。「安保反対運動の学生のエネルギーをスポーツに振り向ける国の指導があったから」という話を聞いたのは卒業してからでした。高校時代にインターハイ出場経験のある芸工大 1 期生と 2 期生が中心になってヨット部を立ち上げ、超一流のコーチを招き、年間 100 日以上の合宿練習に励み、全日本レベルの成績を上げていました。

私は 5 期生で、ヨット部に入ったのは 1972 年です。動機はなんとなく。たくさん入った新入部員が 1 人抜け 2 人抜けていく中で、気が付いたら残っていて、好きになっていたというのが実情です。ヨットは体力や運動神経だけではなく、センスと戦略とハードウェアのチューニングで勝負ができます。私はヨット部でこのような基礎を形成できたおかげで、国体や全日本



大会に数多く出場し、スポーツの感動・醍醐味を経験できました。

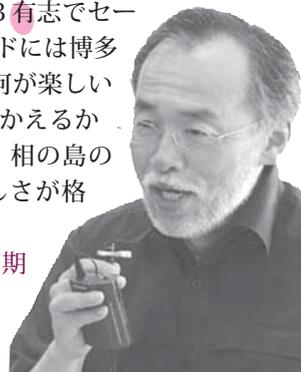
1994 年に本学に教員として戻ってきたときに、そんな DNA を受け継ぐヨット部の練習に参加したのは当然で、荒れていても準備ができていれば、海に出てセーリングできることの幸せをみんなまで共有しました。

2003 年に九州大学と統合し、芸術工学部ヨット部には新入部員が入ってこなくなりました。三々五々となっては体育会系サークルは維持できず、九州大学ヨット部に統合することになりました。

ヨット部の歴史は 35 年で幕を閉じました。誰もが本当に死にそうになった経験もあり、その歴史にはたくさんの感動が詰まっています。卒業生には<国体や世界選手権に出場>した OB や OG がいます。みんなヨットが好きで、海が好きなんです。

2008 年に福岡在住の芸工大ヨット部 OB 有志でセーリングクルーザーを購入し、ウィークエンドには博多湾をクルージングしています。「海に出て何が楽しいの?」と聞かれますが、荒れた海に立ち向かえるから、穏やかな海の幸せや、芥屋の寿司屋、相の島の海鮮チャンポン、平戸の伊勢エビのおいしさが格別なのだと思います。

富松潔 / 工業設計 5 期



母校は今。

芸術工学研究院長に就任して

石村真一



平成 21 年 10 月より芸術工学研究院長の仕事をしています。九州芸術工科大学に着任した際、管理運営にかかわる職務に就くことはないと考えていましたので、4ヶ月経っても毎日が緊張の連続です。箱崎で行われる会議の多さには些か閉口していますが、九州大学における芸術工学研究院の立場を少しでも強固にするためには、弱気なことは言っておれません。教育、研究の基盤整備、急速に進展するグローバル化への対応に精一杯努力します。同窓会の皆様から忌憚のないご意見をいただければ幸いです。



先日戦後間もない時期の『工芸ニュース』を読んでいたところ、1948年11月号に、九州芸術工科大学で初代学長を務められた小池新二先生の記事を見つけました。アルヴァ・アアルトに関する内容を記されており、アアルトを建築や家具デザインのスペシャリストとして見るのではなく、生活環境全体をデザインする人物と捉えられています。九州芸術工科大学が誕生する20年前に、芸術工学の理念を既に小池先生は構築されていたと感じました。さらに驚いたのは、1948年に刊行されたギーディオンの『Mechanization takes command』を、小池先生は読まれてアアルトの批評をされている点です。最新の文献に目を通してアアルトのデザインを精緻に探求されるという研究者としての姿勢に感服した次第です。小池先生は、後に九州芸術工科大学の授業で『Mechanization takes command』を使われたとお聞きしていますが、まさに近代デザイン史研究のパイオニアです。

1968年に九州芸術工科大学が誕生し、芸術工学の教育、研究が始まって40年以上経ちました。しかし、小池先生が提唱された「技術の人間化」という理念は、未だ風化していないと感じています。デザインの用語が横文字になり、コンピュータによる作業が増え、時代の求める課題が多少変わっても、「技術の人間化」の理念は、新たな技法と感性で咀嚼することにより、今後も生き続けます。

九州大学大橋キャンパスの1号館、2号館は1969年9月に竣工しました。ペンシルベニア大学でルイス・カーンに師事された香山壽夫先生の設計です。『新建築』にも紹介された立派な建物で、教職員、学生の誇りです。多少メンテナンスは施していますが、まだまだ健在で、大橋キャンパスのシンボルとして大切にに使わせていただきます。

また、平成21年度、22年度の科学研究費に、「デザイン」が初めて時限付きで応募できるようになりました。22年度に応募者が200名を超えれば、研究の細目となる可能性があります。この千載一遇のチャンスを活かすことが、芸術工学研究の発展につながる私に与えられた使命と思っています。

みんなで創る Web 版りメンバー

本部、関東支部、関西支部ともに、リンクしてます
現況（勤務先・住所などの登録情報）は、WEB から更新可能です



2009 年度 通常総会レポート

事業報告～決算報告、事業計画ともに、粛々と議事進行し、承認された（詳細はHPで）。今回のトピックは、渾沌グッズ作家の広川氏。この日のために、わざわざ山口からお越しいただき、グッズ完成までの苦労話を披露頂いた。無事に閉会した会合だったが、やっぱり気になる参加数。役員を除けば12名という淋しさ。毎年の恒例行事として、わざわざ集まる必要があるのか？渾沌会らしい運用を考え、2010年には新しい方向性を見つけない。

同時開催：座談会

音響は学生の参加数50名、音楽業界でも話題のパネラーを迎えることができ、例年の盛会が続いた。環境は学生参加20名と、やや少人数ながら、密度の濃いイベントとなった。これに比べ、画像3名、工業14名という参加数の低迷ぶり（残念ながら芸情はパネラー不在で開催中止）。遠くから帰福頂いたパネラーには失礼の極みだ。『学生（準会員）によかれ』との想いは、先輩達の勝手なおせっかいかもいずれ、その在り方を見直す時期になった。学生サポーターの今後の活躍を期待したい。

●●●●●●●● 懇親会 ●●●●●●●●

今年の会場は、卒業生にとっては懐かしい学食。めったにお会いできなくなった先生方とも会えた。ケータリングの活用で、同窓会財源の節約にもつながった。いいことだらけだったが、やっぱり、気になる参加数。せっかくの機会だし、もっと集まろうぜ、みんな！



2010 年度 総会 5月29日(土) 開催 役員改選につき立候補受付中！『懇親会』もお見逃し無く

九州大学芸術工学部・九州芸術工科大学同窓会会報 13
■同窓会事務局発行 2010.3.1
■編集長 佐伯正繁（画像2期）
■取材 & 写真協力 OB 先生他オールスタッフ